

The
Japan
Interior
Designers'
Association

JID

no. 72 1976.March.1

豊口さんの横顔

川上信二

協会名誉理事豊口克平氏の、昭和初期から日本のデザイン界の中心にあつて、常に先駆者として活動が続けて来られた輝やかな業績が、“豊口克平とデザイン界の半世紀展”として、昨年11月7日より12日まで、小田急ハルク2階特別会場において開催され盛会でした。今号では、それに因み豊口名誉理事の人となりを紹介いたします。

日本のデザイン50年を考える時、剣持勇、豊口克平と言う2人の名前は決して離す事の出来ないものになっていますが、剣持さんは既に亡く、その華々しい業績については、多くを語られ、又、私達に残した影響も大きなものがあります。

豊口さんは、剣持さんから較べると、余りに地味な道を、好んで歩んで来られた丈に、今回半世紀を迎えたデザイン活動の業績を、改めて回顧することが出来たのは私達にとって、非常に意義のあることであった様に思います。

豊口さん、剣持さんの若かりし頃の面影について、ブルーノ・タウト、「日本一タウトの日記」の中に、1933年11月23日(木)、松島見学の時同行した若い人達を評していますが、お2人については、「剣持君（私の助手、若い気持の良い人）、豊口君（蔵田周忠氏のお弟子さんで、知性的、批判的、モダン（新しい材料、

その他が蒐集されている東京の指導所、出張室へ帰ることになっている）云々……」とあります。

陽気で行動的な剣持さん、たえず考え、物静かに行動する研究者の豊口さんの姿をタウトは仲々良く言い表わしている様に思います。

私は、豊口さんが健康を回復されて、仕事にもどられた頃から、独立されるまでの産工試時代、同じ職場におり、その根気強い仕事ぶり、そして深い人間性にたえず、接していました。ほんの一例ですが、私が未だ学校を出て産工試に入り、2年足らずの頃、豊口さんは長い闘病生活を終えられて、産工試に機能実験室をつくられました。当時未だ若僧の私は、アメリカ帰りの意気軒昂たる剣持さんの下で、日本近代調と言うテーマでデザインをはじめたばかりの頃でしたが、未だ椅子の機能的データも不足で、色々とデ

ザインについて悩んでいる時でしたから、機能実験室の創設は非常に新鮮な出来事でした。

その頃の2月のある大雪のあくる日でしたが、豊口さんが、助手と2人で黙々と雪型による椅子の坐姿姿勢の断面を採っているのを見かけました。ただでさえ寒い中を、雪を積み上げては削り、その上に腰を掛けて調子を見ていました。私もたまたま、通りがかりでお手伝いすることになりましたが、寒さにふるえながら、この先輩は仕事に夢中で、この寒さを少しも感じていないのではないかと、その鬼気迫る様な打ち込みぶりに、ただただ驚いたのを憶えています。

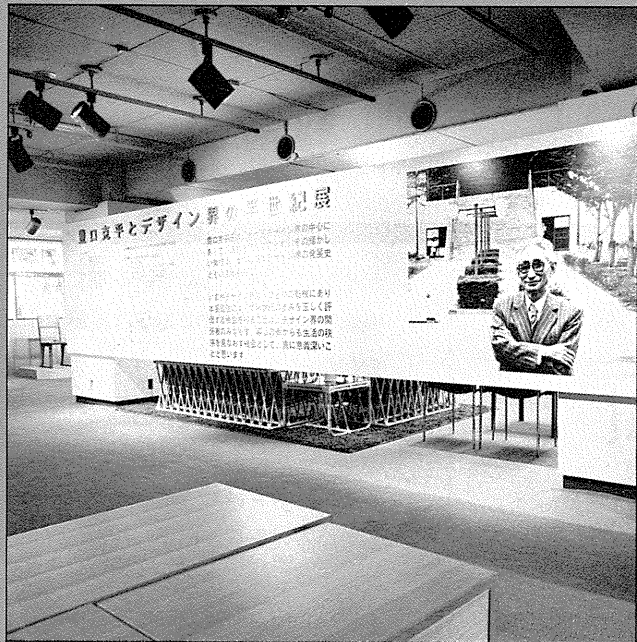
今回の展示会にも出ていました雪型を採る豊口さんの写真は、私がその時、もう傾きかけた夕日をバックに、豊口さんの、あの少しとがった鼻先から、したたり落ちる鼻水が逆光の中にひかって、なんとも美しく、思わずカメラのシャッターを切ったものです。

その後も、豊口さんの今日まで終始変らぬ誠実な仕事ぶりやら、私達のリーダーとしての暖かい人柄に接する時、何故か今でもあの時のことが思いだされてなりません。

これからも、若い者に負けぬファイトで、本当に自分でやりたい仕事に精を出されると思うのですが、いつまでも元気で私達を元気づけてくれると思います。

何か余りに私的な内容になってしまった様ですが、私なりに感じた豊口さんの人柄の一端を紹介させていただきました。

デザイン界の半世紀展によせて



榎田 均

オープンの日に会場を見られた渡辺力さんが「もう半世紀たったんだなあー」と述懐なさっておられたそうですが、私達も夢中で日々を過ごしてきているとつい、その歩んで来た足跡や結果の見直しが忘れ勝ちになってしまいます。

戦前、戦後のもの不足から高度成長の無秩序な生産競争、石油ショックをピークとするデザイン公害論まで出るに及ぶこの世界の移り変わりも激しかったといえよう。この目まぐるしさの中に常に「庶民生活を基盤としたものづくり」に情熱を注ぎ続けた老デザイナーの作品を中心に構成された「デザイン界の半世紀展」

は将に私達関係者のみならず多くの人々の共感を呼んだものと考えられます。

或るデパートに所属するデザイナーが此の展覧会を見て熱っぽく語っていました。「薄っぺらな合理主義、商業主義の中で頑張り続けて来たが、何か支えを失ない現状からの脱皮を図る意味でここに来て何かやり度い意欲が沸き立って来た。

特にこれからは単品の追求指向ではなくトータル性の中でもう一度ものを組み直す必要がある」と。

会場の何が彼をしてこう言わせたか定かではないがわかる様な気がします。この半世紀デザイン界の資料を集めているとき感じたのですが、形而工房運動、代用品のデザイン、機能実験等の一連の研究にみられる庶民性からのものを見かたにヒントがひそまされていた様な印象を受けました。

こうした一貫性が感化を及ぼし盛況裡に本展が閉じられたのだと考えられました。

寿美田与平

デザイン活動半世紀の資料を整理しながら、我々の分野にも歴史的な厚味をもって来たことを感ずる。デザイン運動の先駆的活動も伝え難くなっているようだ。現在は物のあり方にアセスメントを必要として居る。生活を支える物に対する反省の時である。物造りの原点としたデザイン運動の歴史をあらためて見直すことに意義を認めて「豊口克平とデザイン界の半世紀展」が計画された。型示工房運動の貴重な資料や作品は鮮明に印象づけられたに違いない。限られたスペースであったがこれらの資料の公開は極めて珍しいことでもあった。

ところで展覧会展示担当として準備を進める中で、資料検索に多くの時間と人手を要するのは致し方ないとしてもその資料の保管と管理上に多くの問題があることが判って来た。戦前からデザイン活動の中心母体である製科研では、榎田さんの個人的配慮によって漸く保管が支えられていると云う。貴重な資料の逸散処分危険にさらされている実態は製科研の質的变化によると云いながらまことに憂慮せざるを得ない事態である。これは製科研に限ったことでなく、他に保管されている多くの資料についても同じく危惧される面の多い事が判った。生の資料は語るべき迫力をもっている。デザイン運動50年を経た今日、このあたりで貴

重な資料文献の一括管理の手立てを検討することを提案したい。

先日来、四団体協議会（日本デザイン団体協）ではデザイン会館の構想案作成についての組織造りが検討されている。会館の実現のあかつきには、歴史を物語る資料の保管と管理は事業の中にとりあげられようが、当面の対策については是非とも話し合いの場が欲しいものと考えている。

中村圭介

“デザイン界の半世紀”をふり返って見ると、それは、まったく、工業デザインへの歩みということができましよう。

家具や雑貨などの生活用具の生産分野は、1910年代に問屋制手工業生産から加工機械の導入による資本主義的生産への転換と、徒弟制度の崩壊が始まり、1955年以降の工業生産の興隆期へ移行するわけですが、デザイン運動としては、1925年からの60年の運動にしばられるようです。

この間の運動の特長は、工業化を促進しようとするモダンデザインと、近代化に批判的で、手仕事を基盤にした人間性を尊重しようとする民芸運動との対立にあったといえるでしょう。

このようなことは、日本の生活文化を考えるにあたって、決して好ましい事態ではなかったと思います。

本来、人間生活のより良き充実を考えなければならないデザイン運動が、産業の近代化によってより多くの利潤を求める資本の要求にしたがい、人間性を失ったことは反省しなければなりません。

そのような時代に、豊口克平先生の仕事に常に国民生活の向上や公共性を重視した活動をしてきたことは貴重なことだと思います。

60年代以降、作品活動が活発になると、デザイン運動としては、停滞し始めることも、デザイナーの思想性の弱さをあらわすものではないでしょうか。

今、われわれが“デザイン界の半世紀”をふり返るということは、まさに“デザ

イン界の反省期”を意味しており、本当に日本人の生活を基盤にした日本のデザインとはなにか、を考えなければならない時だと思います。

渡辺 優

絵画や彫刻のような芸術は個人的領域が基盤だが、デザインは社会性をもたねばならない宿命にある。デザイナーの中にも、個性の表現に重きをおく作家がいるけれども、一方でデザインは本来アノニマスなものという考え方が強い。

豊口先生の仕事はどちらかといえば作家的でない。デザインの重要性や、デザイナーの立場を明確にするという意味で、その活動は常に表面に出されて来たが、作られた物自体の多くは強く個性をうち出そうとするタイプではないように思われる。先生の場合、活動全体に大きな意味と功績があるといつてよいだろう。

私たちが豊口先生を少々無理矢理にかつぎ出して展覧会を開いた理由のひとつには、デザイナーの単なる作品展でないところに意義を感じたからであり、日本のデザイン界の半世紀と結びつけて、「歴史的、あるいは社会的な角度からとらえることのできるデザイナーは、先生の他にはないのではないか」という気がしていたからでもある。

この展覧会を開いて、あらためて感じたことは先生を始め先駆的な役割を果たした人たちが敷いた路線の上を、多くのデザイナーたちが歩いてきたということと、その路線を敷くことがいかに大変なことだったか、重要な意味をもっていたかということである。

急速な高度成長の過程で、この路線の行き先をあいまいにする霧がたれこめてきたが、今日の経済事情はかえって霧をはらうことになったといえなくもない。もう一度私たちの歩く方向を確かめあう時期に今あるのではないかと思う。展覧会名の中の半世紀は反省期だと思ったと先生もいわれたが、私個人としてもいろいろな意味の反省の機会となった展覧会であった。

西独, デンマークの インテリア・デザイナーの実情

1974年, 通商産業省生活産業局住宅産業課から, インテリア産業振興対策委員会中間報告書として, “インテリア産業の現状” という報告書が発刊され, 大変な反響を呼んだ。この委員会には当協会のメンバー8名も参加してまとめられたものであるが, 日本のインテリア産業の現状を集大成したものとしては初めてのものである。

今回, たまたま, これの外国版の, 西独, 米国, デンマークのインテリア産業の資料を入手したので, 西独およびデンマークの資料のなかから, インテリア・デザイナーにかかわる項を抜粋してみた。会員諸氏の日常活動に寄与できる部分があればと考える。

この資料は, 日本貿易振興会 (JETRO) の海外経済情報センターによって作制された資料の再版として, 財団法人・住宅産業情報サービス (専務理事 佐々木宏) から刊行されたもので, 当財団の好意によって転載するものである。

秋山修治

デンマーク

インテリア・デザイン

1. デザイナーおよび建築家の資格付与

デザイナーおよび装飾家については, 一般的に採択された分類はない。“建築家” または “デザイナー” の肩書に制限はなく, 誰でもこれらの肩書で仕事ができる。事実上の区別は, 種々の専門家協会の会員資格で示されており, 肩書のあとに文字によるコードで表示されている。

“建築家 MAA” は, Akademisk Arkitektforening のメンバーである。この協会は建築の美術的側面を主体とする大学レベルの訓練を受けた建築家の協会である。他の型の訓練を受けたメンバーは, 特別委員会に承認されれば, 入会を許される。

“建築家 MDA” は, Dansk Arkitektforening のメンバーであり, これは, 職人芸と技術を強調する訓練を受けた建築家の協会である。

“建築家 DAL” は, Danske Arkitekters Landsforbund のメンバーで, この協会は上記二つの組織の合併したものである。

“建築家 DMA” は, Danske Møbler- og Møbelarkitekter (デンマーク家具建築家) のメンバーで, 家具のデザインを専門とする建築家である。

このほか MAS, DPA などの建築家の協会があるが本調査の主旨からはずれる。

インテリア・デザイナーの主要組織は Foreningen af Møbelarkitekter og Indretningsarkitekter i Danmark (デンマーク家

具建築家・インテリア建築家協会) である。この組織のメンバーは, 自分の名前のあとに MMI の文字を使う権利がある。MMI の共通の背景は, Skolen for Boligindretning (インテリア装飾学校) または Kunsthandvrker- og Kunstindustriskolens Møbelhøj skole (美術工芸家学校の家具部) を修了していることである。適切なまた外国で然るべき訓練を受けたものも数人は受けいられており, 家具を専門とする MAA も数人いる。

2. インテリア建築家の活動

1973年に, 200人の MMI を対象にその活動状況を調べたものがある。

回答者のうち:

17%…独立営業

19%…住宅デザイナーのもとで働いている。

18%…卸売および小売会社所属

14%…公共機関に所属

9%…協同組合に所属

9%…その他に所属 (うち半分は外国)

残り14%は雇用されていないが, または, さらに訓練を受けていた。

回答者200人のうち75%は婦人, 25%は男性。

MMI は, 組織によって決められた規準に従って報酬を受ける。一般には, デザイナーは依頼者からのみ支払いを受けるべきで, 他の個所 (特にサプライヤーから) 支払いを受けてはならないとされている。料

金は, 1 ヶ月から3 ヶ月内の分割で支払われる。

インテリア建築家の大きい活動は, オフィス, レストラン, 展示会など “公共” 場所の飾り付けおよび装飾の計画と監督である。

機能別にみた料金の典型的な区別は次の通りである。

15%…準備スケッチ

25%…最終スケッチ

40%…最終製図および記述

10%…入札者とサプライヤー契約の取りまとめ

10%…監督, 管理など

100% (後料金)

インテリア建築家は, 権威筋との接触が必要な場合 (たとえばホテル, 映画館) は然るべく処置し, また依頼者から支払いを受ける前に, サプライヤーの請求書をきびしく検討することも行う。

料金は, プロジェクトの総額をもとにして算定される。単純な仕事は, もしプロジェクトが [デンマーク・クローネ] 10,000 クラスであれば, 総額の21%が支払われる。しだいに少なくなり, 200万クローネ, クラスでは7%になる。複雑な仕事 (たとえば, 会議室, 図書館, 銀行, レストラン) は, 1万クローネ, レベルで35%, 200万クローネ, クラスで11%が支払われる。

(1 クローネ=約60円)

3. 家具および繊維品のデザイン

工業デザインは, 自由な活動分野で, 伝統的に多くの違った背景をもった人びとに公開されている。工業デザイナーの協会はある (Industrielle Designere i Danmark 略称 IDD) が完全にカバーしているとはとても言いがたい。

プロジェクトに任命された際には, デザイナーは, その努力に応じて支払いを受け当該品目の販売額に対する一定割合のロイヤルティを支払う取決めにいる。

重要なタイプのデザイナーは, 織物, 染色またはプリントを行う美術工房をもつ独立のオーナーである。

デザイナーはメーカーまたは卸売業者間の競争が厳しいほど重視される (繊維品はとくに)。

4. デザイナーおよび建築家の養成

すでに指摘したように, いくつかの訓練の機会があり, その期間と集中の度合はそれぞれ違っている。一般的な建築家訓練セ

ンター（政府経営）は、MAAおよびMDAを育成するが、両者ともDALと呼んでよいことになっている。基礎的訓練ののち、家具デザインを専攻する機会（大学レベルをめざす学校教育ベースの5年間、または、キャビネット製作者として徒弟時代を完了したあとの3年間）がある。

Kunstindustriskolens Møbelhøyskoleはキャビネット製作者としての訓練を基盤とする教育センターである。このタイプの訓練はMMIを何人かつくる。他方、大部分はBiligindretning（入学テストのあと3年のためにSkolenで教育を受ける）。

上に述べた訓練はすべて国の認可を受けており、全額または部分的に国の補助を受けている。

他の訓練コースも存在するが、その公的資格は、時によってあいまいである。しかし少なくとも最終段階の教育を行う施設のひとつが国の監督を受けるようになった。厳格な外観をもつ施設の中、次のものを指摘することができる。

Indendørs Arkitekt Akademietで、これは二年間にわたって80のレッスンを受け、最終試験を受けるものである、この施設は、自主的に国の監督を受けている。しかし試験をパスしてもMMI取得の資格は与えられない。

いくつかの他のどちらかといえば厳格な学校は、卒業するものに、自分の名前のうしろに文字の組合せを使用する権利を与えている。注目すべきことは、自分の名前にいくつかの文字の組合せをつけている事が、資格のある建築家またはデザイナーであることを保証するものではないという事実である。MAA, MDA, DAL, MMI, DMAなどの略号は、最低水準にあるデザイナーには役立とうが、絶対的な保証を与えるものではないと結論づけることができよう。一つの重要な例外は追加されるべきである。IDDが、高く評価されている工業デザイナーの組織を示すものであり、その中には、家具産業と関係するものもあるということである。

原則として、これらの学校は外国人学生にも公開されている。しかしスカンジナビア語の一つをマスターしない学生には言語の障害が生じてこようが、この問題は各個人ベースで解決されねばならない。

【デンマークのインテリア産業】財団法人住宅産業情報サービス刊行 昭和50年10月発行
住宅産業シリーズNo81より抜萃

西独

【西独のインテリア産業】財団法人住宅産業情報サービス刊行 昭和50年11月発行 住宅産業シリーズNo83より抜萃

インテリア・デザイナー

(1) 職業および仕事のイメージ

インテリア・デザイナーとは、室内装飾を技術的、経済的に企画し、部屋および装置対象を有機的、機能的に決定、かつ秩序づけるといふ特別の課題を職業とする建築専門家のことをいう。

インテリア・デザイナーの仕事の重点は、個人および集団のための部屋およびその要素の形成である。

インテリア・デザイナーは、企画を定めるにあたって、社会学的、心理的、美的知識のほか、造形理論の知識およびそれらが人間とその環境に与える作用までも配慮する。

インテリア・デザイナーは、自由業としての仕事を進めるときは、仕事を委託する発注者の受託者となる。その仕事の内容は、彼の報酬の基本となる料金規定の仕事内容に対応して、企画とその実施に関連した諸問題ということになる。

インテリア・デザイナーは、建築家会議所法のなかで定められている職業規則が適用される。

インテリア・デザイナーは、自由業の形でも、企業に雇用された形でも仕事を行なう。インテリア・デザイナーの仕事は、多岐にわたっているが、つぎの分野が中心となっている。

a. デザイン理論と基礎研究

たとえば需要分析、システム研究、評価基準などの分野。

b. デザインの実施

たとえば、部屋および部屋のコーディネーション、増設、設備対象、そのシステムの設計と発展、その監督、コンサルティングおよび鑑定的仕事。

c. 情報提供と教育

たとえば、専門雑誌の発行、あらゆる

コミュニケーション分野における広報活動、職業教育と研修。

d. マネージメント

民間業界の諸分野における企画グループ内での、いろいろの専門分野の調整。

インテリア・デザイナーは、その職業教育にもとづく、資格をもち、みずからの発意にもとづいた形で仕事をするが、他の、企画に参画する部門と協力、調整を行ないながら仕事をしなければならない。

現在西独には、約4,000人のインテリア・デザイナーが活動している。

インテリア・デザイナーの業界団体は、「登録法人ドイツ・インテリア・デザイナー協会」（ボン）であるが、現在まだ650人が加盟しているにすぎない。

この団体の規約から、その活動の目的とするところを抜萃するとつぎのとおりである。

(2) ドイツ・インテリア・デザイナー協会 (BDIA)

a 目的と任務

BDIA、西独のインテリア・デザイナーの団体で、その職能身分の形成と名声を向上し、これを確保することを目的とする。

BDIAは、会員の職業上の代表機関である。その任務はつぎのとおり。

- 1) 文化的責任の担い手としての職能身分の確保とその促進ならびに、職業名称と職業の実施の保護。
- 2) 一般社会および官庁に対する職能身分の代表、職業的に関連のある諸団体、諸機関に対する連絡、広報活動の維持と強化。
- 3) 加盟会員の経済的および専門事項の代表。
- 4) 職業教育、研修および後継者の積極的育成。
- 5) 職業原則の貫徹。
- 6) 加盟会員の権利に関するコンサルテーション（GRW）に定められているコンクールにのみ参加すべきものとする。
- 9) BDIAの会員はいずれも、会に対して名誉職的に協力する義務を負う。

(3) 報酬規則

インテリア・デザイナーの報酬決定は、現在なお、1951年に定められたGOA（建築家の料金規定）にもとづいて行なわれているが、これはちかいうちにHOA（建築家報酬規定）に改正される予定で現在連邦経済省で準備中である。内容はつぎのとおり。

シヨンおよび社会的保障。BDIAは、政治的および利己的目的を一切追求しない。

b. 組織

BDIAは、州協会にわかれ、その領域は西独各州の会議所地域区分に合致する。州協会は独立の団体ではなく、その業務規定は、BDIAの規約に背反することが許されない。州協会の代表は理事会とし、理事会は2年ごとに、各州協会の会員総会により選任される。各州協会の最上席理事が全国評議会を構成する。

c. BDIAの諸機関

- 1) 会員総会
- 2) 全国理事会（幹部会）
- 3) 雇用インテリア・デザイナーの代表1名を含めた全国評議会

d. 会員の義務

会員はつぎにかかげる職業原則をまもる義務を有する。

- 1) BDIAの会員に対しては、それぞれ管轄のデザイナー会議所の職業原則がこれを規制する。
- 2) BDIAの会員は、技術的、経済的ならびに建築法的規定にもとづいてその活動を行なうべきものとする。仕事の態様には特別の重要性を与えるべきものとする。
- 3) BDIAの会員は、同僚の現在契約関係を尊重する。

- 4) 発明、特許権の侵害は、職業上不名誉な行動である。
 - 5) BDIAの会員は、個人的な宣伝をつつしむべきものとする。
 - 6) BDIAの会員は、現行の料金規定にもとづき、契約によりそのデザイン・サービスを定めるものとする。
 - 7) BDIAの会員は、自分の受注仕事を第3者に仲介もしくは分与して何らかの形の対価を得る場合には、職業上の名誉をおかさなないこと。
 - 8) BDIAの会員は、宣伝もしくは懸賞審査員をつとめるときは、建築家コンクール原則（GRW）に定められているコンクールにのみ参加すべきものとする。
- 〔建築家報酬規則（HOA）〕

第1部 総則

- ・総論
報酬／専門的な業務／報酬の確認／報酬の期限／建築上の対策／複数の仕事／複数の設計／複数の対象／実施の時限的分離／建築期間の超過
- ・定期的報酬
時間の使用にもとづく報酬／建築家・エンジニアの報酬／共働者の報酬
- ・定期的報酬

副次的費用／売上高税

第2部 特別の仕事

- ・合理化
合理化の効果をもつ特別の仕事／合理化の専門家
 - ・プロジェクト指導者の仕事
（プロジェクト指導者の仕事は、1973年11月にはじめてこの業界一般に提示され1974年2月18日に連邦経済省で開かれたエンジニア主催のセミナーで討議の対象とされている。これは、まず資格のある事務所が満たさねばならぬ仕事を領域を明示している。一般企業と一般請負業者を中に入れることによって、独立の建築家を専門家としてコントロールさせることが、特別の重要性をもつことになる）
 - ・冬期工事の仕事
 - ・鑑定
 - ・その他の特別な仕事
- ## 第3部 建築仕事と設備の仕事
- ・建築工事の仕事
基本的仕事／補足的仕事／建築的業務の報酬
 - ・設備に対する報酬
 - ・装置に対する報酬
 - ・完成部品の開発に対する報酬

■賛助会員

朝日木工(株)豊川工場
(株)コスガ
(株)天童木工東京支店
飛騨産業(株)
富士ファニチャー関西販売(株)
ネコス工業(株)
古川工業(株)
(株)ホウトク
フランスベット(株)
(株)オリエンタル中村百貨店
(株)大丸装工部
国際インテリア(株)
(株)モダン・ファニチャー・セールス
日本総業(株) (エアボン)
クラレインテリア(株)
(株)ホクサン
(株)木村屋
三好木工(株)
愛知(株)
(株)コトブキ

セミカインテリア
住江織物(株)東京支店
トソー(株)
長谷虎紡績(株)
藤井毛織(株)東京事務所
内一商事(株)東京営業所
(株)カワキチ
(株)サンゲツ
アイカ工業(株)
東洋ゴム工業(株)
富国(株)
(株)高島屋
(株)高島屋東京支店設計部
(株)ニック (NIC)
(株)ハヤミズ家具センター
揖斐川電気工業(株)建材事業部
(株)トップトーン
(株)佐野紙芸インテリア事業部
東濃陶器(株)
(株)アイ・エム・エス
(株)日建設計

(株)カフアドハウス
(株)竹中工務店東京支店
(株)ファースト東京支社
(株)商園
(株)小川商店
(株)川島織物東京営業所
(株)東光堂書店
松下電工(株)
ヤマギワ電気(株)
共同通信工業(株)
(株)新宮商行東京支店
(株)フジエキスタイル
(株)アルフレックスジャパン
中央設備エンジニアリング(株)
日本ビクター(株)デザイン部
内外木材工業(株)東京支店
同社東京支店分室
(株)三平興業装飾部
共同印刷(株)
(株)ハック
鹿島建設(株)建築設計本部

山田照明(株)
(株)森 伝
(有)ビジュアルブレン
(株)武藤精密
(株)海 市
浅野産業(株)
MAAM INTERIOR
寿屋木工(株)
昭和エフキヤスト(株)
ロイヤル(株)
(株)西武百貨店家具装飾部
西和インテリア(株)
(株)北新合板製造所
ユニオン装飾工業(株)
日本板硝子(株)東京支社
帝人リビングシステム(株)
(株)カスタムインテリアデザイン
ワコールインテリアファブリック事業部
立川ブラインド工業(株)
光建産業(株)
日本鋳業(株)

■編集後記

■冷たい雪の空から一転して青い空の毎日が
つづく此の頃、編集諸氏一同、原稿の集まり
具合に一喜一憂。とくに協会の主幹事業とし
ての広報の使命を思うにつけ、初心にかえっ
て前進の意欲にもえるも再々ならず。

■庭のすみの小っちゃな霜柱が、冬の陽を浴
びてあえなく吸い込まれるいつとき。寒さに
たえるが如く庭の樹々も冬には眠るが如くと
か。ひとときのしじまをやぶる雀のさえずり。
ふと見ると見なれぬ鳥も、その群れの中に。
雀は鳥の中では、最も寛容な鳥とか。

■目前の小事よりも遠望する生きる大義に重
きをおくのか、この雀の寛容と力強さを大い
に汲みとってみたい。ふとみると、空にはか
わいい白い雲が浮んでいた冬のある日、感。
(尾上)

会報委員〔東京〕尾上孝一 三宅征郎 光藤俊夫
山岸航史 長谷川六 諸富顕治
〔関西〕中村隆一
〔中部〕林 寅正 八代美代子
宇賀敏夫 安藤 清
〔九州〕中川千年 香月寿一 堤 久夫

機関誌・JIDNO.72

発行人——白石勝彦
担当理事——川上信二
編集人——J I D 会報委員会
発行所——社団法人日本インテリアデザイナー協会
住所——〒150 東京都渋谷区神宮前2-3-16
建築家会館3階
電話——03(403)3649
発行日——昭和51年3月1日
印刷所——広洋印刷株式会社
定価——300円
振替——東京・76389